

令和元年度 病虫害発生予察情報(美濃地域:施設野菜) 12月予報

【 トマト 】コナジラミ類

ほ場内に設置した黄色粘着板への誘殺数は、平年よりやや多く推移しています。春先の増加を防ぐため、対策を徹底してください。

【 イチゴ 】ハダニ類

同一ほ場内でも発生にばらつきがあります。ほ場内をよく観察し、部分的な発生に注意してください。なお、天敵を導入しているほ場では発生状況に注意し、発生が多い場合には天敵に影響の少ない薬剤で防除を実施してください。

○主な病虫害の発生状況及び今後の予測(12月)

作物	病虫害名	12月(予測)	発生状況及び今後の予測	11月(発生量)	防除上の注意事項
イチゴ	うどんこ病	少	調査ほ場では発病は認められない。今後、発病適温より気温が低下するため、急激な増加はないと予測される。	少	<ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病 発生初期の防除を徹底する。 ・ハダニ類 ほ場内をよく観察し部分的な発生に注意する。
	ハダニ類	やや少	調査ほ場で発生が認められる。今後、気温は高いと予報され、発生が認められないほ場でも注意が必要である。	少	
	コナジラミ類	少	調査ほ場では発生は認められない。今後、発生適温より気温が低下するため、急激な増加はないと予測される。	少	
トマト	灰色かび病	少	葉先枯れ等では発病は認められない。曇天が続くと、ほ場内の湿度が高まるため、発生に注意する。	少	<ul style="list-style-type: none"> ・コナジラミ類 厳寒期でもほ場内では低密度で生息しているため防除を徹底する。
	コナジラミ類	やや多	ほ場内外で発生が認められる。今後、発生適温より気温が低下するため、急激な増加はないと予測されるが、定植時から発生が多いので、引き続き注意が必要である。	やや多	
キュウリ	褐斑病	少	調査ほ場では発病は認められない。耐病性品種では今後も発生は少ないと予測されるが、罹病性品種では発生に注意する。	少	<ul style="list-style-type: none"> * 11月調査は抑制栽培 12月予測は半促成栽培 ・べと病 過湿時には循環扇等を利用し、通風を良くする。 ・アザミウマ類(ミナミキイロ) 一部ほ場で黄化えそ病の発生が確認された。本病の発生ほ場では、切り換え時に粒剤を施用する。長期越冬作型では発生が見られれば防除を実施する。
	うどんこ病	少	調査ほ場で発病が認められる。今後、発病適温より気温が低下するため、急激な増加はないと予測される。	少	
	べと病	やや少	調査ほ場で発病が認められる。今後の気象によりほ場内の湿度が高まるため、増加が予測される。	少	
	アザミウマ類	少	調査ほ場で発生が認められる。今後、発生適温より気温が低下するため、急激な増加はないと予測される。	少	

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注2) 調査品種：イチゴ(濃姫・美濃娘)、トマト(CF桃太郎J:葉かび病耐病性)、キュウリ(はやか:褐斑病、べと病、うどんこ病耐病性)

野菜類 微小害虫

【ウイルス病を媒介する微小害虫】

ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病の、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病のウイルスをそれぞれ媒介します。これら微小害虫は、株と株とを移動し、次々とウイルスを媒介するため、低密度でも大きな被害を与えます。

トマトでは、タバココナジラミは、ほ場内で越冬するため、厳寒期のほ場内の防除を徹底し、春先の増加を抑えましょう。

キュウリでは、作型を切り換える場合(特に黄化えそ病が発生していた場合)は、次作の定植まで20日以上空け、保毒虫が次作に引き継がれないようにしましょう。

また、以下の対策により微小害虫の防除を徹底してください。

- ① 前作の残渣やほ場内の雑草で生存するため、処分を徹底する。
- ② 定植直後の増加を防ぐため、定植時には粒剤を施用する。
- ③ 開口部を防虫ネットで被覆する。
- ④ 薬剤散布を行う場合、同一系統薬剤の連用を避ける。



タバココナジラミ



ミナミキイロアザミウマ

数値データ

(調査11月:岐阜西濃地域)

イチゴ

うどんこ病	(発病株率)	0	(0.0)
ハダニ類	(寄生株率)	5.3	(13.1)
コナジラミ類	(寄生株率)	0	(1.2)

トマト

灰色かび病	(発病果率)	0	(0.0)
コナジラミ類	(誘殺頭数)	5.7	(4.1)

キュウリ

褐斑病	(発病葉率)	0	(6.3)
うどんこ病	(発病葉率)	1.4	(9.6)
べと病	(発病葉率)	0.5	(11.2)
アザミウマ類	(寄生頭数/葉)	0.01	(0.26)

注1)イチゴは3ほ場、トマトは3ほ場、キュウリは2ほ場の調査

注2)()内数値は平年値、株率、葉率、果率は%、頭数は頭

注3)トマトのコナジラミ類は施設内に設置した黄色粘着板1枚あたりの誘殺数(11月1半旬~11月3半旬までの累計誘殺数)

＝施設栽培の病虫害の防除について＝

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病虫害の発生状況が異なります。施設内をよく観察し、病虫害の発生状況に応じた防除を実施してください。

東海地方1カ月予報(名古屋地方気象台 11月28日)

向こう1カ月の気温は高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年より少ない予想です。平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。岐阜県山間部では、平年に比べ、同様に曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。

岐阜県病虫害防除所では、この他に病虫害の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767